

清水橋



今回の探訪は清水橋まで。ここから上流に向け、桜の名所「大岡川プロムナード」と呼ばれる3kmに渡る桜並木の道の散歩道が続く。撮影：豊田直之

个性的で頑丈な造りの橋が続く。

この区間は、無数の荷揚げ場跡や、今も流域に並ぶ材木屋が当時の面影を残し、个性的な橋の数々が魅力だ。

水上では、橋桁よりもコンクリートの橋脚や橋台を間近に見ることができる。そして、この土台の部分、橋の歴史をより物語る。

栄橋から清水橋までの8つの橋のうち、1923年の関東大震災後に震災復興計画(1924(大正13)年—1930(昭和5)年)によって架設され、今も残る橋は道慶橋、一本橋、山王橋の3つ。

これらの橋の頑丈な橋脚や橋台には、復興に向けた

当時の関係者たちの意気込みを感じる。

また、水上からの方が見付けやすい「復興局施工」の銘板をSUPから探してみた。一本橋だけは他の復興橋梁とは違い「横浜市施工」の銘板があった。

一本橋は道慶橋と同じく、彫刻家澄川喜一が1988年に制作したもので、「人」という文字がデザインされている。橋というのは、基本構造の基準さえ満たしていれば、デザインの自由度は高いものなのだということが分かる。

次号では、清水橋からさらに上流を目指す。大岡川プロムナードと呼ばれる散歩道が整備されている区間、まるまる太った巨大鯉の群れが待っているはずだ。

大岡川の『生き物みつけた!』No.10 オオシロカネグモ



体長1~1.5cmほどの中型のクモ。銀白色の細長い卵型の腹部を持ち、脚は長く美しい緑色を帯びるのが特徴です。北海道を除く日本全土に広く分布。山間の水辺や溪流地などに棲み、近



水辺の近くの木々や草の間にほぼ水平に円形の巣を張ります。撮影：豊田直之

くに水の無いエリアでは一切見られません。

本種を含むこのシロカネグモの仲間は、巣を水平に円形で張ること、また巣の中央には空間があることが知られています。ほとんど巣の中央で待機していて、エサとなる昆虫が巣に絡むのを待ちますが、巣の脇の物陰に隠れている姿もしばしば見られます。

オスは、メスの張った巣の脇で待ち、メスが脱皮する瞬間を狙って交尾します。巣の上で待っていると、間違えてメスに



脚は長く、美しい緑色をしているのが特徴。巣の脇の物陰で足を伸ばして休む姿もよく見られます。発見場所：磯子区水取沢。撮影：豊田直之

エサだと思って食べられてしまうことがあるからなのだそうです。メスの脱皮のタイミングを見計らうのも、誤食を防ぐためのオスの知恵。誰に教わることもない生きるための知恵には驚

かされます。本種は大岡川流域である水取沢(ひとりざわ)の沢脇の木々の間でよく見られます。しかし11月を過ぎると姿を消してしまっています。

『第一回 川でつながるSDGs交流会』開催されました。「SDGs(Sustainable Development Goals)」の達成は皆の目標。はじめの一步、はじまりました!



大川哲郎氏による講演が行われました。私たちはSDGsという言葉が振りかざすだけの人ではなく、実行する人になるべし。参加者は各々うなずいていました。撮影：今井俊志

が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した17の目標のこと。

初回の開催にも関わらず50名近い参加者があり、会場内は異常なほどの熱気に包まれていました。大川哲郎氏(株式会社大川印刷代表取締役社長)の講演の後、親睦会も開かれました。

SDGsという言葉だけが一人歩きし、実を伴わないものが多く見受けられる世の中にするのではなく、この会はSDGsを確実に実行していく人の集まりであり、そ

のための会である。という大川社長の力強い宣言に会場内は大いに沸きました。

今後2ヶ月に一回開催予定で、次回は11/14(水)に開催予定。当NPO理事長が「子どもたちとチカラを合わせてSDGsの実現(仮題)」というテーマで講演予定です。

『川でつながるSDGs交流会』についてのお問い合わせ

株式会社大川印刷
TEL 045-441-2011
FAX 045-441-2014
E-mail magokoro@ohkawa-inc.co.jp

大岡川に、暮らす、働く、学ぶ、遊ぶ、人



「子どもは4人、これもウリなんです。未っ子にメロメロ、定番お父さんの一面も。」

株式会社太陽住建
代表取締役社長

河原 勇輝さん

編集部員からリクエストで、「第1回 川でつながるSDGs交流会」の会場にもなった蒔田橋近くの新社屋で話をうかがった。その風貌から若き二代目だとばかり思っていたが、職人からの叩き上げで、23歳で独立企業された異色の社長。現在33歳。事業は住宅リフォームや太陽光発電システム設置など多岐にわたるが、「会社を地域貢献の拠

点に」と、大岡川上流の磯子区から本社を移転されたようだ。

この、フットワークの軽さと自社事業で地域貢献する姿勢、それを楽しめる人柄。これが、街の人たちから愛される所以だ。数々のユニークなプロジェクトを立ち上げ、行政も地域住民も障害者も、皆が支え合い自立を可能にした奇跡のビジネスモデルを実現できた要因でもあろう。

自らがどうしたい、という自己実現欲求の話は無い。社名

に込められた「大地を潤す太陽のような存在に」の思いの通り、終始一貫、コミュニティー発展実現欲求の話題に尽きる辺り、頭が下がる。職種に関わらず、人間が目指す仕事はここにあるのだと、年長者に諭された気分取材を終えた。

趣味のキックボクシングに加え、「フルマラソンと登山にも挑戦することになった」と不安そうだが、瞬発力に持久力と忍耐力が加わる予感。大岡川流域、ますます面白くなりそうだ。



「新しく普遍的なリーダー」の話に引き付けられる学生たち、横浜国立大学にて。

9/5(水)、大岡川脇に移転した株式会社太陽住建の新社屋にて、『第一回 川でつながるSDGs交流会』が開催されました。

これは当NPOと株式会社太陽住建、株式会社大川印刷の三者が発起人となり、大岡川をはじめとする川をベースに、人と地域、NPO、企業、行政とが繋がり、SDGs(エスディーゼー)の目標達成のために17の目標を実践して行こうという集まり。

SDGsとは、持続可能な開発目標のことであり、世界



講演後、親睦会も行われました。SDGs実現のために大岡川をはじめとする川をベースに、人と地域、NPO、企業、行政とが繋がる。そんな会が立ち上がりました。撮影：今井俊志

湘南太陽会グループは人々の心とからだの健康を総合的に支援します。湘南太陽会

しえあひるずヨコハマ SHARE HILLS YOKOHAMA 居住空間と展望台のレンタルスペース

新車販売 車検 板金 加賀美自動車 南区永田南1-4-10 045-741-7321 info@kagami-car.com

毎日診療しているクリニック 鳥居泌尿器科・内科 [金沢文庫] 23時まで診療しているクリニック Aoi 23 clinic 相生23クリニック [関内] 泌尿器科トラブルの総合カウンター スカイビル 腎・泌尿器科クリニック [横浜]